

## ウンム アブドルアズィーズ 米国出身の元キリスト教徒 (4/4) : キリスト教からイスラームへの改宗

説明 :

彼女は改ざんと無縁な宗教であるイスラームを通し、神の真の性質を理解し、心の平安を得ます。

よりウンム アブドルアズィーズ

掲載日時 31 Mar 2014 - 編集日時 31 Mar 2014

カテゴリ : [記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [女性](#)

私には、「なぜあなたはムスリムになってしまったの」と問いかける人々に対して借りがあります。なぜなら、これを書くことはバイブルの再読を助長し、過去に私が直面していた多くの議論と、なぜ私がやがてムスリムになったのかという理由を明白にさせたからです。現在、ムスリムとしてバイブルを読み直すことによって、そこにあるものへの驚きを禁じ得ません。私はキリスト教徒としてバイブルのすべての章句を読みましたが、その全体としてのメッセージについては全く感知していなかったのです。

私は所謂「信仰を新たにした」キリスト教徒でした。ある夜、私は聖霊に起こされた気がしました。それで私は救われ、洗礼を受け、その後数年に渡って毎週に複数回、教会での集合礼拝に参加していました。私は自分の信仰心を増加させたかったのです。私には多くの疑問がありましたが、あの救いを経験をした後、どうやって答えを探せばよかったのか分かりませんでした。すべての宗派 教派には異なる教えがあります。それらの大半は聞こえは良かったのですが、バイブルのどこからその教えを見いだせるのかと問いただしたとき、私を満足させるような答えは殆ど帰ってきませんでした。

親戚や友人、隣人たちを通して、異なるキリスト教のグループについて知る機会もありました。ユダヤ教徒と無神論者についても同様です。友人たちを通し、やがて私はカトリック教会に魅了されるようになりました。その「最古」かつ「元来」の教会であるという評判と、神は各人にとって異なる存在であるという、一部のおそらく(異端的な)宣教師による教えも私の興味を引きました(つまり、神はあなたが神にどうあってほしいのかということによって異なる存在であるということでしょう)。彼らは、ローマの発令する教えのすべてを信じずともカトリックになれると私に言いました。

カトリックの信者たちは、私のような「信仰を新たにした」キリスト教徒たちが経験したような救済を経験してはいませんでした。しかし、彼らは各人で「奇跡」を経験していました。あるグループがユーゴスラビアに旅し、複数の若者たちが聖母マリアの幻影を定期的に目にしていたのです。その旅路において、私たちの教会に所属していた敬虔な女性のロザリオ数珠の金属製のつながりが純金に変わったり、取材のため彼らと一緒に旅していたプロテスタントのニュースキャスターは、聖母マリア像が涙するのを目撃しています。

叔母と叔父を訪問した私は、彼らのプロテスタントの教会に出席したことがあります。私はそこで、親戚や同席者たちが文字通り「聖霊に乗り移られた」のを目撃しました。彼らは彼らの声ではない、何らかの理解出来ない言語で叫んでいました。彼らにとって、それは非常に個人的かつ人生を変える経験であったと語っています。私は彼らの高い倫理観に関しては感心していました。

私はまた、「体外離脱」し、肉体を超越して「神」「光」「平安」とひとつになる体験をしたというニューエージ集団についても耳にしたことがあります。超越体験に関するいくつかの新刊も話題を呼びました。

その当時、私は人生で初めて何人かのムスリムたちと知り合いになりました。私は彼らから、ろくな装備もしていなかったアフガン自由戦士たちによる抑圧者ソビエトに対する奇跡的な勝利の話を聞きました。アフガニスタンに関してのそれらの逸話は驚異的かつ超自然的でもありました。私はそれらをすべて信じることは出来ませんでした。最小限の兵力でアフガン人たちがソビエト軍を国境から追い出したという事実は知っていました。彼らは「ムスリム国家」の設立を目指していたのです。

私はこれらに関して疑問を抱き始めました。異なった相反する宗教の人々が、なぜそれらのしるしを受けとっていたのでしょうか。神は彼ら一人一人に対し、正しい道に従っているということを告げていたのでしょうか。

現在、私はムスリムとして疑念や混乱とは無縁の生活を送っています。善と悪の力が「超自然的」な物事を引き起こすことがあることも知っています（バイブルもマタイ24：24でそう述べています）。善悪の霊、悪魔、悪霊など（ムスリムはそれらを「ジン」と呼びます）の存在は真実なのです。ジンとは人間と同じように自由意志を持った、異なる種の被造物です。イスラームでは、サタンはジンであるとされ、キリスト教徒によって主張されるような墮天使ではないとされます（イスラームによれば、天使たちは神に背くことの出来るような自由意志を持たないとされます）。一部のキリスト教徒たちは、バイブルにおいて何度も述べられているにも関わらず、ジンの存在を否定します（マタイ4：24、7：22、8：28-33、11：18、12：28、17：18、マルコ1：34、テモテ上4：1、ヤコブ2：19、黙示録18：2）。目に見えない「力」は真実であり、それらはクルアーンにおいて私たちの心に「ささやきかける」ことすら出来ると述べられます（クルアーン114：1-6）。しかし、神は私たちの魂を最善の形によって創造され、そこに神への知識と善悪の判断力を与えたのです。また神は、信仰を確信することの出来る知性も授けており、真の信仰とは私たちの本質的な性質、そして知性の双方と調和するものです。

神の恩寵により、イスラームは私の心と精神を征服しました。一度、過去に歩んだ道の誤りに気付く、イスラームの完全な真実性を認めると、私は人生に大幅な変更を加えなければならないことを確信しました。自分の信仰を神に認めてもらうには、それに沿った生き方をしなければならないのです。私は心の確信が、四肢による行いを支配するようしなければなりません。私は自分の人生、健康、そしてその他すべては神の恩寵によるものであることを否定することが出来ませんでした。また、神の神格性に他者を付属することも許容出来なくなりました。ムスリムの親友と地元のモスク（ムスリムの礼拝の場）へ行き、「アッラーの他に神はなく、神以外に崇拝に値するものはなく、ムハンマドは神のしもべであり、使徒である」という信仰告白を公に証言したのです。

皮肉にも、私の選んだイスラーム的装い それは他の米国人に対し、自分は他人とは違うのだと真っ先に主張するものは、キリスト教徒たちにとって奇異に映るべきではないものです。新約聖書はキリスト教徒たちにこう説きます。

“ 婦人はつつましい身なりをし、憤みと貞淑をもって身を飾るべきであり 高価な着物を身に着けたりしてはなりません。 ”（テモテへの手紙一 2：9）

また、髪を覆うことを指示します。

“女はだれでも祈ったり、預言したりする際に、頭に物をかぶらないなら、その頭を侮辱することになります。それは、髪の毛をそり落としたのと同じだからです。女が頭に物をかぶらないなら、髪の毛を切ってしまいなさい。女にとって髪の毛を切ったり、そり落としたりするのが恥ずかしいことなら、頭に物をかぶるべきです。”（コリント人への手紙一 11：5-6）

頭部をベールで覆い隠すことは、ユダヤ教徒の女性の伝統でもあります。

私はイスラームの改宗者として、ヒジャーブ自体は抑圧的ではなく、開放的であると感じています。私は改宗以前に身につけていた衣服よりも、ヒジャーブをまとって家を出たときのほうが、他人からのより大きな敬意を感じます。ヒジャーブは、自分の「価値」が肉体的特徴に大きく左右される非イスラーム社会のしがらみから女性を開放します。もちろん、私がイスラームを信仰し続ける理由は他にもあります。イスラームと他宗教に関してより多くを学ぶほど、私がイスラームを選んだ決断が正しいものであったということをより深く確信するのです。

私は神が私に慈悲深くあり、過ちを赦し、信仰を増大させ、誘惑から遠ざけてくれるよう祈ります。私はこれを読む読者がクルアーンに目を通し、自分自身のために真実を探求することをお勧めします。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/612>

Copyright © 2006-2013 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.